

第16回あらかわ炎祭

8月1日（土）、競馬場であらかわ炎祭が開催されました。市内の小学生の手で「四つの炎」が点火され、ステージパフォーマンスや太鼓フェスティバル、さのよい踊りなどさまざまな演技が会場を沸かせました。また、競馬場ならではの「馬場レースイベント」は39組およそ200人が参加し、大人から子どもまで大歓声をあげる白熱した催しとなりました。祭りは約900人が参加した総踊りで最高潮に達し、「四つの炎」の檜が燃え上がる中、力強い太鼓の音と華やかなナイアガラ花火を背に幕を閉じました。

約1万5千人が来場した荒炎祭は、運営に携わった皆さんと参加した市民の皆さんの思いが響き合い、すばらしい祭りとなりました。

フィナーレを飾ったナイアガラ花火

馬場を走る経験はなかなかできません

↓騎手も本気です

馬場レースイベント

↑スピードでも、パフォーマンスでも、魅せます！

←四つの炎に点火

←ステージパフォーマンス

←総踊りの様子

←さのよい総踊りは庄巻！

→炎を勢いつけるような太鼓の演奏

→大行灯最優秀賞
荒尾第二中学校Aさんの作品

←創作行灯最優秀賞
（株）夢工房さんの作品

←Tシャツデザイン最優秀賞を受賞した高木綾美さん。素敵なTシャツが祭りを盛り上げました。

↑今年の祭りクイーンの吉川紗知恵さん（左）と、準クイーンの浅井愛さん（右）。吉川さんは「若い人が荒尾市のよさに気づいて頑張るきっかけになりたい」、浅井さんは「少しでも荒尾市のお役に立てたら」と意気込みを語りました。

夜空を焦がした「四つの炎」

まちの話題



安全で、住みやすい荒尾にするために、市長と「まちづくり談義」



熱心な意見交換が行われました。

7月23日（木）、上井手上地区集落農事集会所で「まちづくり談義」が行われました。市長が地域の皆さんと直接語り合い、市政への意見や提言をいただきました。この日は、学校校舎の耐震化について、元気会の活動についてなどの意見が交わされました。

医療の現場を知り、将来に生かしたい
市民病院高校生一日看護体験

7月30日（木）、市民病院で、市内外の高校生12人が参加し、看護師が日頃行っている業務を一日体験しました。整形病棟では、将来医療現場で働くことを目指している4人の高校生が、ベッドのシーツ換えや足浴、シャンプーなどを体験しました。

足浴を受けた人は「楽しみに待っていました。孫からしてもらったようだ」と嬉しそうに話していました。高校生は体験を終え、「難しいけれど喜ばれるとうれしい」と笑顔を見せました。



しわなく早くシーツを換えるには、コツが必要。だんだん手順がよくなっていました。

身近な川から環境を学ぶ
生物教室



真剣な表情でのぞきこむと…あ！いた！

8月7日（金）、岩本橋付近の関川で「生物教室」が開催され、荒尾市、大牟田市、南関町の児童26人、保護者17人が参加しました。

参加者は6つの班に分かれて実際に川に入り、川底の石の裏などに住む生物を捕まえました。その後、川の水の透明度や水質などを、目視したり試薬を使うなどして調べ、捕まえた生物の数や種類を観察しました。水質の指標となる生物が9種類確認され、「不快を感じない水環境」と判定されました。子どもたちが水環境を知る貴重な経験をしました。

若い力で社会を明るく！
第59回社会を明るくする運動市民大会ヤングス
ステージINあらか

8月9日（日）、文化センター小ホールで“ヤングステージINあらか”が開催されました。

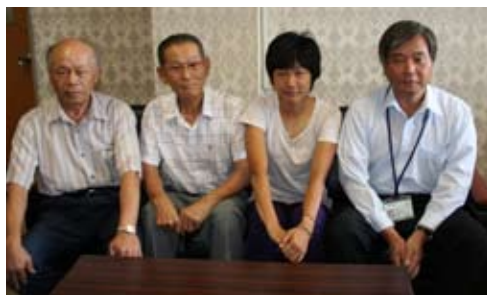
およそ200人の出演者が、琴の演奏やさのよい踊り、和太鼓演奏にヒップホップダンス、吹奏楽やバンド演奏などの多彩なプログラムを繰り広げ、日頃の熱心な活動の成果をステージで発表しました。

力強く見ごたえのあるステージに、訪れたおよそ450人の観客は大きな拍手と声援を贈っていました。



↑披露されたエイサー。躍動感あふれる踊りでした。

西川生夏さん（四中出身）
ユニバーシアード女子1万メートルで4位入賞！



おめでとうございます。今後のご活躍を期待します。
(左から市陸上競技協合理事長 中村武雄さん、同会長 白水勝万嬉さん、西川生夏さん、吉永一夫副市長)

8月12日（水）、西川生夏選手（名城大4年、四中出身）が、今年7月にセルビア共和国・ベオグラードで開催された第25回ユニバーシアード競技大会の女子1万メートルで4位に入賞し、報告に市役所を訪問されました。西川さんは、「これからも可能なかぎりトラック競技を中心に、陸上を続けていきたい」と熱く抱負を語りました。